

民主化闘争情報

No. 876
2013年3月12日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

JR総連の連合内での孤立化がますます進んでいる。今夏施行の参議院議員選挙において、連合方針に反し全国比例で「生活の党」公認の立候補予定者を推薦決定した。

JR総連が山岡氏を推薦！ 連合内での孤立化さらに進む！

「旬刊ACCESS第356号(2013.2.10)」によれば、「…7月の参議院選挙比例代表で前衆議院議員の山岡賢次氏を「統一推薦候補」に決定した。…3年後の組織内議員(田城郁参議院議員)再選の展望を拓くため、「山岡選」に死力を尽くす考えだ。」とした方針を受けてか、JR東労組などのJR総連加盟単組もこぞって山岡推薦を決定している。

連合の参議院選挙方針は第12回中央執行委員会(2012.9.12)で確認された「国政選挙の基本方針」に基づき対応方針(その2)を第17回中央執行委員会(2.15)で決定し、さらに第18回中央執行委員会(3.7)で(その3)を決めた。「9擁立構成組織と支援構成組織は、連携して比例代表候補による組合員一人ひとりとの対話活動を徹底させ、個人名の浸透をはかる。その他構成組織についても、働く仲間を支援する観点から、連合9構成組織が擁立する比例代表候補の支援に集中する。…」とする方針である。JR総連の山岡推薦は、明らかに連合に矢を向ける方針を組織決定したことになる。

また、「JR総連第173号(2013.2.15)」には、「山岡賢次氏の政策は、「国民の生活」を第一理念に置いて、何よりも、憲法第9条堅持など、JR総連の運動を共有しており、統一推薦候補者として申し分ない」などと推薦決定理由を明らかにしている。労働組合が、組合員の生活向上よりも、「何よりも、憲法第9条堅持」が推薦理由とは、なかなかJR総連らしいが、組合員の気持ちを考えているのか甚だ疑わしい。

そもそも山岡賢次氏は「日本を守る会(後の日本会議)」の結成参画者の山岡荘八氏の義子。日本会議は日本の伝統と国柄に基づく改憲運動に取り組み96条改正に積極的な団体である。その山岡荘八氏を師と仰ぐ山岡賢次氏を推薦するとは笑止千万である。

JR総連はこれまでも連合方針に批判を繰り返し、今回も連合推薦候補に見向きもしない組織体質は、既に連合加盟の条件をクリアできていない産別組織としか言いようがない。田城選挙の保険代わりに連合加盟をしているのだろうか？

**山岡推薦は、働く仲間・連合への裏切り
ではないか！ どうするJR総連！**